

1. 現状

- (1)豊かな漁場を有し、沿岸・沖合漁業、養殖業、内水面漁業等多彩な漁業が発展し、地域経済を支えている。
- (2)漁業を支える水産資源は、資源評価対象種の半数以上が中位以上に維持されているが、魚種により傾向が異なる。
- (3)東京湾では、ノリ養殖の不作、アサリの漁獲量の減少が続いている。
- (4)漁業経営は、収入の伸び悩みと資材費や修繕費等の支出の増加により、老朽化した漁船等の整備が進まない。また、新たな担い手の参入が少なく、漁業就業者の減少と高齢化が進行している。
- (5)銚子や勝浦漁港等全国トップレベルの漁業基地を擁し、水産加工業や水産流通業が発展している。
- (6)消費者の水産物に対するニーズが多様化する中、人口減少による国内の水産物の需要規模が縮小傾向にある。
- (7)アワビやイセエビ等の魅力ある水産特産品は、観光業の発展にも大きく寄与しており、水産業は裾野が広い。

2. 取巻状況の変化（国の動向等）

- (1)資源評価体制の強化
 - 数量管理等による資源管理の充実と評価対象種の拡大や精度向上、積極的な情報公開
- (2)持続可能な漁業・養殖業の確立
 - 高船齢船の代船を計画的に進め、生産性の向上による果実を労働条件の改善に活用し漁業を魅力ある職業とする
- (3)加工・流通・消費の対策
 - ファストフィッシュ商品の開発、水産エコラベルの推進、HACCPの義務化、農林水産業の輸出力強化戦略の策定
- (4)「浜の活力再生プラン」、「浜の活力再生広域プラン」制度の創設
 - 漁業・漁村地域の活性化対策について、浜ごとの取組を実践
- (5)「内水面漁業の振興に関する法律」の制定
 - 内水面漁業の振興の基本的な方針
- (6)渚泊の推進
 - 漁村の豊富な観光資源の活用

3. 基本方向

- (1)水産資源

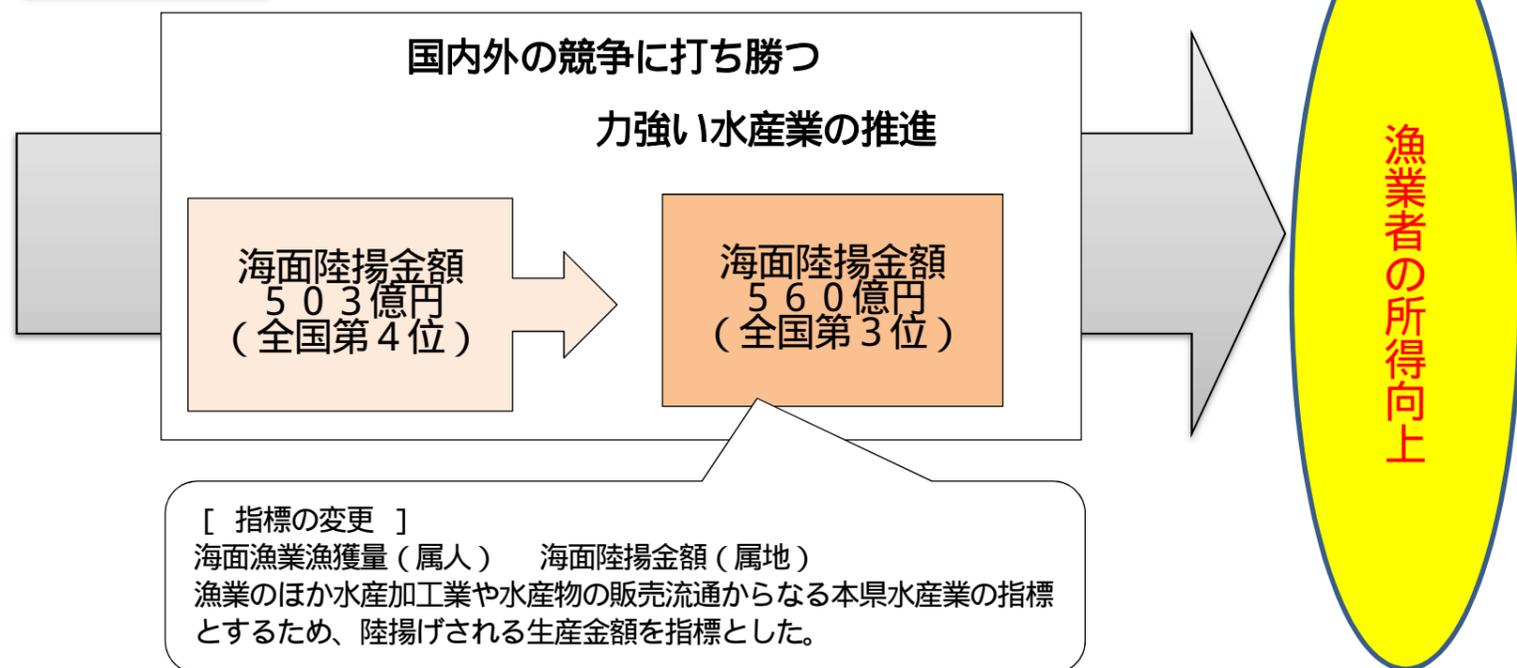
資源管理推進体制を充実・強化するとともに、つくり育てる漁業等を推進し、水産資源の維持増大を図る
- (2)漁業経営

生産性向上のための漁船等の導入や経営感覚に優れた担い手の確保・育成対策により、収益性の高い漁業経営と安定的な水産物の供給体制の確立を図る
- (3)流通・加工

荷さばき所の再編整備や流通拠点漁港の整備等により漁港・流通機能の強化を図るとともに、地域特産品や低利用・未利用資源を活用した水産加工品の開発等に取り組む。また、県産水産物の魅力発信とブランド力の浸透拡大を図る
- (4)内水面

ウナギ等の資源管理を推進するとともに、地域の特産品の創出により、内水面漁業の振興を図る

4. 目標



5. 計画期間

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	
千葉県 総合計画	総合計画 「輝け！ ちば元気プラン」								新 総合計画 「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」					
	総合計画 「新 輝け！ ちば元気プラン」													
千葉県 農林水産業 振興計画	部門別計画								農林水産業振興計画					
	農林水産業振興計画													